

済生会広島病院

医学生アドバンストコース（1ヶ月：診療参加型）

研修プログラム

【当院の特性・特徴】

済生会広島病院は安芸地区における急性期医療を中心に医療を提供している。この地域における拠点病院として、内科救急（消化器、循環器系疾患だけでなく広く内科一般）に対応している。それだけでなく高齢化社会に対応するため、また社会福祉法人としての責務をはたすため、急性期から慢性期に至る地域医療、無料低額診療、介護老人保健施設や特別養護老人ホームなどの介護施設との連携、健康診断など医療、福祉、保健を包括的に提供している。

【当院での研修について】

以下の診療科において、全人的医療の実践の中で各科1週間ずつ計1ヶ月の研修を行う。

1. 消化器内科
2. 循環器内科
3. 外科
4. 整形外科

チーム医療を実践する医療者の一員として診療に従事することを通じて、医療者のもつべき7つの能力を学び、基本的なものを習得することを目標（GIO）とする。

7つの能力とは、1. 臨床技能、2. 公衆衛生、3. 科学的基礎知識、4. プロフェッショナルリズム（態度）、そして、これらを支えるための、5. コミュニケーション能力、6. 情報管理、7. 批判的思考、をさす。

参考) Core committee, Institute for International Medical Education: Global minimum essential requirement in medical education, Med Teach 24: 130-135, 2002

【当院 HP】 <http://www.saiseikai.com>

【実習責任者】 副院長 松本公治
e-mail: matsumoto@saiseikai.com

【連絡先】 済生会広島病院 総務課 坂本洋司
e-mail: sakamoto@saiseikai.com
所在地 広島県安芸郡坂町2-3-10
Tel: 082-884-2566、Fax: 082-820-1746

内科（消化器、循環器）

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践のなかで学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義で得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診療・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の診療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診療に必要な情報を収集できる。
- 4) 主要な症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる。
- 5) 内科（消化器、循環器）領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈出来る。
- 6) 内科（消化器、循環器）領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 7) 収集した情報をもとに、POMR<問題指向型診療記録>を作成できる。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
- 9) 診療に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
- 10) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接するときは大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
- 4) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布する。実習中に学んだこと、体験したことを実習期間中毎日漏らさず記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込みすること。
- 2) 第1週の月曜日に各診療科の指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。ただし指導医の予定によっては別の指導医と行動をとるにもすることもありうる。指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、主治医団の一人として入院から退院までの医療に参加すること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指導を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテに書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 4) 病棟回診の際には、患者の概要と現在の進行状態を簡潔に指導医に提示すること。各科のカンファレンスでは規定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。
- 5) ポートフォリオ
毎日記載し、実習日誌「毎日の振り返り」について、毎日の終わり、ないし翌日の朝に指導医のコメント・署名をもらうこと。

【各科の週間スケジュール】

別紙参照。

消化器内科 研修予定

	月	火	水	木	金
午前 8:30～	腹部超音波	内視鏡検査	腹部超音波	腹部超音波	内視鏡検査
午後 14:00～	特殊検査	特殊検査	特殊検査	特殊検査	特殊検査
17:00～			内科カンファレンス	内視鏡カンファレンス	外科カンファレンス

入院患者の診療は原則指導医の指示に従ってください。

(具体的な目標)

- 腹部エコー検査 : 各内臓臓器の構造の描出方法を理解する。
- 内視鏡検査 : 胃・大腸の観察部位の理解と病変の診断ができるようになる。
ERCP など特殊検査の使用器具の理解を深める。
- 腹部 CT 検査 : 各消化器疾患の CT 画像を理解する。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
08:30-09:00	オリエンテーション	打ち合わせ	打ち合わせ	打ち合わせ	打ち合わせ
09:00-12:00	病棟回診 (急患対応)	エコー検査2 新患外来	エコー検査3 外来	エコー検査5 (急患対応) ミニレクチャー5	エコー検査6 ミニレクチャー7
	エコー検査1	心臓リハビリ ミニレクチャー3			栄養指導 ミニレクチャー8
12:00-13:00	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩	昼休憩
13:00-17:00	CT検査 ミニレクチャー1	心カテ1 ミニレクチャー4	エコー検査4(実習)	心カテ2 ミニレクチャー6	(*ペースメーカー外来) (*トレッドミル)
	生理機能検査 (*トレッドミル) (エコー検査) ミニレクチャー2		(*ペースメーカー外来) (*トレッドミル)		病棟回診
		病棟回診	病棟回診	病棟回診	総括・まとめ
17:00-18:00	循環器画像カンファ		内科症例カンファ		循環器症例カンファ

*トレッドミル、ペースメーカー外来はどれか1回に参加

- エコー検査1 心エコー撮り方基礎
- エコー検査2 心エコー実践
- エコー検査3 心エコー実践
- エコー検査4 自分でエコーを撮ってみる
- エコー検査5 心エコー実践/頸動脈エコー
- エコー検査6 心エコー実践/腎動脈エコー

実践ミニレクチャー

ミニレクチャー1

動脈硬化の病態

ミニレクチャー2

狭心症の診断
心筋梗塞の診断
末梢動脈疾患の診断

ミニレクチャー3

心不全の診断・治療

ミニレクチャー4, 6

狭心症の治療
心筋梗塞の治療
末梢動脈疾患の治療

ミニレクチャー5

心エコー診断

ミニレクチャー7

高血圧の診断・治療

ミニレクチャー8

循環器疾患における栄養学

【評価】

10 項目の到達目標が実習中にどの程度達成されたかを評価する。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	15 点
ベッドサイドでの患者とのコミュニケーションの評価	10 点
カンファレンスでのプレゼンテーションの内容	15 点
学生用カルテの内容	15 点
ポートフォリオの内容	15 点
各科領域に関する知識・理解度	15 点
検査処置室・手術室での行動・態度	15 点

以上の 7 項目について採点して総合評価（100 点満点）を行う。

【消化器内科医師一覧】

- 小林博文（医長） 日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医
吉良臣介（医長） 日本肝臓学会認定専門医、日本消化器病学会認定専門医
日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医
谷本達郎（医長） 日本消化器病学会専門医、日本内視鏡学会専門医
杉山真一郎（医長）
神野大輔（医長） 日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本超音波学会認定超音波専門医
児玉美千代（医長待遇） 日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医指導医
小坂祐未（医員）

【循環器内科医師一覧】

- 松本公治（副院長） 日本循環器学会認定循環器専門医、日本高血圧学会指導医
唐川真二（医長） 日本循環器学会認定循環器専門医
渡辺光章（医長） 日本循環器学会認定循環器専門医、日本高血圧学会指導医
齋藤靖浩（医長） 日本循環器学会認定循環器専門医
梅村隆史（医長） 日本循環器学会認定循環器専門医、日本脈管学会認定脈管専門医
曾我潤子（医長） 日本循環器学会認定循環器専門医

済生会広島病院

医学生アドバンストコース(1週間：診療参加型)研修プログラム

外科

【当院の外科研修の特徴】

1. 当院は広島市の東に位置し、安芸区矢野、坂町、熊野町、海田町などを主な医療圏とし、多岐にわたる症例を診療している。
2. 上記地域の拠点病院として、がん治療、救急医療を中心に地域完結型病院を目指している。
3. 当院外科では、一般外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科を診療している。癌の手術だけではなく、抗癌剤治療や緩和医療も行なっている。もちろん、急性の外科的疾患(急性虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔、自然気胸など)の緊急手術も行なっている。
4. 当院外科は4名で、全員専門医を取得しており、経験も豊富である。
5. 大学病院からも比較的近く、利便性に富んでいる。

【一般目標 GIO】

チーム医療を実践する医療者の一人として診療に従事することを通じて、医療者の持つべき7つの能力を学び、基本的なことを修得する。

7つの能力とは、1. 臨床技能、2. 公衆衛生、3. 科学的基礎知識、4. プロフェッショナリズム(態度)、そしてこれらを支えるための、5. コミュニケーション能力、6. 情報管理、7. 批判的思考、をさす。

【到達目標(行動目標) SBOs】

1. コミュニケーションを通じて、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
2. 基本的な診療知識に基づき、患者および家族から診療に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
3. 身体診察を適切に実施し、所見を解析してその後の診察に必要な情報を収集できる。
4. 術前の治療計画の検討と手術への参加、術後管理の理論的背景と実際を、実習で体得する。
5. 担当する手術において、その解剖と術式を理解する。
6. 適切な手洗い、ガウンテクニックと簡単な縫合、糸結びができる。
7. 外科領域で用いられている主要な検査・治療について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる。
8. 外科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。

9. 収集した情報を基に、POMR [問題志向型診療記録] を作成できる。
10. 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
11. 診療に必要な知識・情報 (MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む) を、適切に検索・収集することができる。
12. 医療チームの構成や各種成員 (医師、薬剤師、看護師、その他の医療職) の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる。

【注意事項】

1. 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートをつけ、靴を履くこと (サンダルは禁止)
2. 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
3. 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
4. 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。
5. 特に手術室においては清潔・不潔の区別に留意し、指導医の指示に従って行動すること。

【実習の内容 LS】

1. オリエンテーション
 - ・実習開始の月曜日の朝 8 時 30 分に病棟 (中 2 階病棟) にてオリエンテーションを行う。
2. 指導医とのチーム医療の実践
 - ・月曜日に指導医を割り当てる。
 - ・実習期間中は指導医と常に行動を共にする。ただし指導医の都合によっては別の指導医と行動を共にする事もある。
 - ・具体的には逐一指導医の指示に従うこと。
3. カルテ記載 : POMR の実践
 - ・病歴聴取や診察で得た所見、またその後行われた検査や結果や今後の方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。
 - ・紙カルテは実診療で使う電子カルテとは別物であるが、実際に主治医として診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
4. 病棟でのガーゼ交換
 - 毎朝 8 時 45 分から病棟でガーゼ交換をするので、ガーゼ交換係の医師とともに処置をする。
5. 外科カンファレンス
 - ・毎週金曜日の 13 時 30 分から外科カンファレンスを行っている (中 2 階カンファレンスルーム)。
 - ・入院患者のカルテ回診と術前カンファレンスを行っている。

- ・ 指導医の指定した症例について主治医の代わりにプレゼンテーションを行う。このため事前に十分準備しておくこと。

6. 実習日誌

- ・ 実習日誌(毎日の振り返り)は毎日または翌日の朝に指導医のコメント・署名をもらうこと。

【週間スケジュール】

時間	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
8:30	出勤・指導医との打ち合わせ				
8:45	ガーゼ交換など(中2階病棟)				
午前	手術	手術	外来 研修	外来 研修	外来研修
午後	手術 処置	手術 処置	手術 処置	手術 処置	13:30~ 外科 カンファレンス
夕刻					17:15~ 内科外科合同 カンファレンス

外来研修は外来化学療法室での研修も含む。

各カンファレンスは45分から1時間程度である。

【評価 Ev】

12項目の到達目標(SBOs)実習中にどの程度達成されたかを評価する。

- (1) 指導者(医師・看護師・事務職・技術職技師)による、医療者としての行動(パフォーマンス)・態度の評価 (15点)
- (2) ベッドサイドでの患者とのコミュニケーションの評価 (10点)
- (3) カンファレンスでのプレゼンテーションの内容 (15点)
- (4) 記載したカルテの内容の評価 (15点)
- (5) ポートフォリオの内容の評価 (15点)
- (6) 当科領域に関する知識・理解度 (15点)
- (7) 手術室での行動・態度の評価 (15点)

以上の7項目について採点して総合評価(100点満点)を行なう。

【外科医師一覧・PHS・専門領域・資格】

亀田 彰（副院長・医療部長） PHS 3017 一般消化器外科・腫瘍外科・内視鏡外科
広島大学臨床教授、日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、
日本大腸肛門病学会指導医、日本臨床外科学会評議員、日本内視鏡外科学会評議員
麻酔科標榜医

家護谷 泰秀（外科医長） PHS 3003 一般消化器外科・腫瘍外科
日本外科学会専門医、日本消化器外科学会認定医、

宮原 栄治（外科医長） PHS 3018 呼吸器外科・消化器外科・腫瘍外科・内視鏡外科
広島大学臨床教授、日本呼吸器外科専門医、日本胸部外科学会認定医、
日本外科学会指導医、日本消化器外科学会指導医、がん薬物療法専門医
日本内視鏡外科学会評議員

迫川 賢士（外科医長待遇） PHS 3095 一般消化器外科・腫瘍外科・内視鏡外科
日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、麻酔科標榜医

舛本 法生（非常勤） 乳腺外科・腫瘍外科
広島大学助教・医局長、日本乳癌学会乳腺専門医、日本外科学会専門医、

済生会広島病院 医学生アドバンスコース 研修プログラム（4週間：診療参加型）
整形外科（1週間）

[当院の整形外科研修の特性]

- 1) 当院は病院開設の理念に基づき、生活保護や低収入で医療費に困窮する患者さんを診る機会が、他の病院に比べて多い。また安芸地区の地域拠点病院として（後方支援病院が乏しいこともあり）診療開始から、ゴールまでをトータルで見ることのできる病院である。
- 2) 熊野町など高齢者の多い地域から矢野ニュータウンなど壮年～小児の多い地域までを診療圏に含み、多岐の疾患に遭遇することが多い。
- 3) 整形外科では救急・外傷一般に加え、高齢～超高齢者の手術、脊椎疾患・膝関節疾患・上肢外科疾患等、専門的な症例も多い。保存的治療とバランスのとれた診療が行われている。
- 4) 若い医師の割合が多く、先輩に気軽に相談できる雰囲気がある。
- 5) 当院で必要であるのは「疾患を診る」だけではなく、「症例の全貌を全経過で見る」、「症例のみではなくそれを含む家庭や地域までを含めて考える」という診療である。この診療に触れることは教科書を読むだけでは得られない大切な経験である。

[一般目標 GIO]

チーム医療の一員として診療に従事することを通じて、医療者に必要な能力を学び、習得する。必要な能力としては、以下の4つ、1：臨床技能、2：公衆衛生、3：科学的基礎知識、4：プロとしての意識、そしてこれらを支えるために必要な医療者としての持つべき資質として3つ、1：コミュニケーション能力、2：情報管理、3：批判的思考があげられる。

[到達目標 SBOs]

- 1) コミュニケーションを通じて患者さんおよびその家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 適切な問診を行い、必要な情報を記載するべく、まとめることができる。
- 3) 基本的な理学所見を行い、カルテに記載を行い、問題点を理解することができる。
- 4) 症例に応じた治療方針の作成と、先輩や同僚に、報告・連絡・相談ができる。
- 5) 担当手術において解剖的知識と術式、その際の危険項目を理解する。
- 6) 適切な手洗いとガウンテクニック、縫合・糸結びを可能とする。
- 7) 整形外科領域で用いられる主要な検査・治療について、概要・有用性・限界・危険性を理解し、その結果を解釈することができる。
- 8) 診療に必要な知識・情報（ガイドライン等）を適切に検索・収集することができる。
- 9) チーム医療の各職種のメンバーと適切なコミュニケーションを取り、責任のあるチーム医療の一員としての参加ができる。

[注意事項]

- 1) 清潔感のある服装で従事すること。
- 2) 患者さんやその家族に対しては礼儀正しい態度、言葉遣いに留意すること。
- 3) 守秘義務の厳守、患者さんのプライバシー保護にも気を使うこと
- 4) 時間厳守。遅刻・欠席は必ず連絡すること。
- 5) 患者さんの安全に配慮すること。手術室での清潔に気をつけること。

[実習の内容 LS]

- 1) オリエンテーション： 月曜日の朝の症例カンファレンスに参加し、指導医を割り当てる。
実習期間中 常時指導医と行動を共にすること
指導医の指示に従い、病歴聴取や各種検査に従事する。 可能であれば関節注射や各種ブロック注射、創処置の安全な手技を学ぶ。
- 2) 回診： 朝・夕 担当患者さんの回診を行い、その所見を学生用の紙カルテに記載する。
医師が実診療で用いる電子カルテに記載できるレベルまで整理して、作成する。
- 3) 指導医の受け持つ手術症例に対して、指導医と相談しつつ術式を含め治療方針を作成し、カンファレンスに提出する。
- 4) 指導医の症例に限らず、手術には極力参加して研修をつむ。
- 5) 実習日誌： 毎日その日にあったことを記載し、その日に指導医にコメント・署名をもらう。

[週間スケジュール]

	月	火	水	木	金
時間					
8:30	カンファレンス	指導医と回診	○	○	○
9:00					
午前	外来(病棟)	○	○	○	○
午後	手術	○	○	○	○
夕刻	カンファレンス			カンファレンス	

○は前日と同様

[評価 Ev]

- 1) 指導医による医療者としての行動・態度の評価 15点
- 2) ベッドサイドでの患者とのコミュニケーションの評価 10点
- 3) カンファレンスでのプレゼンテーションの内容 15点
- 4) 記載したカルテの内容の評価 15点
- 5) ポートフォリオの内容の評価 15点
- 6) 当科領域に関する知識・理解度 15点
- 7) 手術室での行動・態度の評価 15点

以上の7項目について採点して総合評価(100点満点)を行う。

[参考図書、文献]

- 1) 手術書 各種
- 2) 整形外科学教科書 各種
- 3) 診療ガイドライン 全種
- 4) インターネットでの文献検索が図書室・研修室で可能

[整形外科医師一覧]

新田泰章	日本整形外科学会認定医	脊椎脊髄病専門医
田中久美	日本整形外科学会認定医	手の外科
伊藤洋平	日本整形外科学会認定医	膝関節外科
住元康彦	後期研修医	